

光星 初戦は明桜（秋田）

全国高校野球 12日の第1試合

第105回全国高校野球選手権（6日開幕、阪神甲子園球場）の組み合わせ抽選会が3日、大阪市のフェスティバルホールで開かれた。本県代表の八戸学院光星（2年連続12回目）は大会第7日の12日、午前8時開始の第1試合で、秋田県代表のノースアジア大明桜（2年ぶり11回目）と対戦することが決まった。

（棟方好華）

対戦が決まり、ポーズをとるノースアジア大明桜の猪原空駆斗主将と八戸学院光星の中沢恒貴主将＝3日、大阪市（代表撮影）

事前の予備抽選の結果、中澤恒貴主将は出場49校のうち40番目に抽選で落着いた表情でくじを引き、「八戸学院光星高校、23番Bです」と抽選結果を読み上げた。明桜とは6月の東北大会準決勝で対戦し、8月5日で勝利している。抽選会終了後の取材に、中澤主将は「予備抽選の時に明桜の猪原主将と『東北同士は嫌だね』を話していた」と振り返り、「くじ

力分り合っている。八学光星・仲井基監督 監督就任後、東北勢と初戦から対戦するのは初めて。明桜は東北大会で対戦したばかりなので、お互いに力を分り合っている。前回は終盤に逆転してたまに勝ったが、好投手が複数いて機動力もあるチーム。しっかり準備して臨みたい。

監督・主将コメント

いいピッチャー多い印象
八学光星・中澤恒貴主将 トキドトしたが、対戦相手が決まる楽しみも味わいながらくじを引いた。明桜との対戦は東北大会準決勝の1回だけというピッチャーが多いため、課題となった。膝から下のボールの見極めを意識して戦ってみたい。

ボールの見極めが鍵
明桜・奥重弘監督 高校トップクラスの力があるチームだと思える。140メートルの左腕のボールをどのくらい見極め、出塁できるかが鍵。特にすばぬいた選手はいないが、切れ目ない打撃や積極的な走塁を待ち味につなぎ、野球をしてほしい。

一球一球大切に戦う
明桜・猪原空駆斗主将 東北大会準決勝では、4-0で勝っていたにもかかわらず、終盤に逆転されて負けた。秋田県大会は接戦が続いたが、最後までしっかり守り切って勝ち進んできたので、東北大会のような負け方はしない。一球一球を大切に粘り強く戦いたい。

光星 甲子園だより
県大会決勝では、延長十回に決勝点となる左前適時打を放った一打のヒーロー。打撃練習中は全身鏡の前でスイングを繰り返す。



妹と弟のために打つ

続け、念入りにフォームを確認。「打たたい」気持ちには入る。試合には、10歳の妹と4歳の弟が、応援に来てくれる。うれしいが、本当は球場じゃなく、動物園や遊園地にきたい。ろくなことし申し訳なさそうなお兄ちゃん。妹と弟のためにも絶対に打って活躍したい。（大阪府・長尾西中出身、174センチ、77キロ。右投げ右打ち）